

第1号議案

令和3年度（2021年度）

（令和3年7月1日～令和4年6月30日まで）

事業計画書

一般財団法人 国際協力推進協会

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

- (1) 太平洋諸国・大学生招待計画
- (2) 太平洋諸国・記者招待計画
- (3) 太平洋諸国・リーダー招待計画
- (4) 太平洋青年研修
- (5) APIC・MCT 協力事業（大学院生支援）
- (6) ナンマトル遺跡保存支援事業
- (7) 次年度以降の事業調査費

2. 日・カリブ友好協力事業

- (1) 西インド諸島大学・大学生招待計画（太平洋と同時実施）
- (2) カリブ諸国・記者招待計画（太平洋同時実施）
- (3) カリブ諸国・リーダー招待計画
- (4) 次年度以降の事業調査費

3. 国際協力に関する講演事業

- (1) APIC 早朝国際情勢講演会
- (2) 国際協力懇話会

4. 留学生奨学金事業

事業の概要

1.太平洋島嶼国開発協力事業

太平洋島嶼国との信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「太平洋島嶼国開発協力基金」を活用して、太平洋島嶼国の環境・エネルギー・観光の分野における開発協力事業として、外務省アジア大洋州局大洋州課と協議も行き、次のプロジェクトを実施する。

(1) 太平洋諸国・大学生招待計画【継続】

太平洋島嶼国の大学生を我が国に招待して、短期間の研修を行う。昨年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により実施ができなかったが、本年度は南太平洋大学（フィジー）の大学生計 2 名が上智大学の夏季プログラムに参加し、日本についての基礎講義を受講するとともに、環境・エネルギーなどの関連施設の視察を行う。実施時期は 2022 年 6 月を予定。西インド諸島大学・大学生招待計画(※)と同時に実施する。

(参考)

| 年度 | 対象国（招待人数：名） |
|-----|--|
| H27 | ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（1）、サモア独立国（1）、ソロモン諸島（1） |
| H28 | ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（2） |
| H29 | ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（2） |
| H30 | ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（1） ソロモン諸島（1） |
| R1 | パラオ共和国（1）、マーシャル諸島共和国（1）、ソロモン諸島（1） |
| R2 | フィジー共和国(1)、ソロモン諸島(1) 中止 |
| R3 | 南太平洋大学から 2 名予定 |

(2) 太平洋諸国・記者招待計画（APIC Journalism Fellowship Program）【継続】

太平洋島嶼国の有力記者を招待して、我が国の環境保護・防災・エネルギー利用などについて理解を深め、もって我が国の現状についての広報を行ってもらおう。昨年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により実施ができなかったが、本年度は、記者 2 名を招聘して、環境・防災・エネルギー関連施設の視察を行う。本件招待計画については、諸外国の記者招待に知見のある日本フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施する。実施時期は 2022 年 4 月を予定。カリブ記者招待計画(※)と同時に実施する。

(参考)

| 年度 | 対象国 |
|-----|---|
| H27 | フィジー共和国、マーシャル諸島共和国、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、ミクロネシア連邦 +フロイド・タケウチ |
| H28 | フィジー共和国、パプアニューギニア独立国、トンガ王国 +フロイド・タケウチ |
| H29 | フィジー共和国、サモア独立国、米領サモア +フロイド・タケウチ |
| H30 | パプアニューギニア独立国、米領サモア、パラオ+フロイド・タケウチ |
| R1 | パラオ共和国、トンガ王国、マーシャル諸島共和国+フロイド・タケウチ、マタス |
| R2 | フィジー、ソロモン諸島+フロイド・タケウチ、マタス 延期 |
| R3 | フィジー、ソロモン諸島+フロイド・タケウチ、マタス |

(3) 太平洋諸国・リーダー招待計画【継続】

昨年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により実施ができなかった。太平洋島嶼国のリーダーを我が国に招待して、我が国のオピニオン・リーダーとの会談を行うとともに、環境・エネルギー・観光に関連する視察を通じて、我が国についての理解を深める。本年度は、昨年度から延期になった太平洋地域のリーダーを数名招待予定。実施と被招聘者については国際的な往来の再開状況を見つつ、判断していく。

(4) 太平洋青年研修【継続・繰越】

太平洋諸国の将来を担う可能性のある若手実務者を我が国に招待し、地方自治体を中心に研修を行う。本年はサモア独立国とミクロネシア連邦からの招待を予定している。

サモア独立国については、一昨年度に海士町職員と APIC 職員が訪問し事前調査を実施したところであり、その結果を踏まえて海士町において研修を行う予定であったが、新型コロナの世界的な蔓延の影響で昨年度は実施できなかった。サモアの若手研修を予定している島根県海士町は島根県沖に浮かぶ人口約 2400 人の離島であるが、積極的に働き手の誘致や「教育魅力化プロジェクト」による島外高校生の誘致を行っており、島全体で町おこし・コミュニティ開発に取り組んでいる。研修では、コミュニティ開発・教育・環境・観光分野等における実践的かつ分野横断的な能力を養成することが期待できる。

ミクロネシア連邦については、現地環境団体職員等と候補者について協議中であるが、カリブ青年研修(※)との合同で、鹿児島県大崎町でのごみ分別処理研修を予定している。

APIC は参加者を日本に招待する際に発生する経費及び研修地である自治体への渡航費や現地での滞在費・研修費を負担する。研修の企画運営は海士町に依頼しコーディネート料を APIC が負担する予定。

(5) APIC と MCT との協力事業 大学院生支援【継続】

MCT との協力事業の中で、2017 年には、長期的に環境に携わる人材育成も意義ある支援であるとの観点から、上智大学と協議を行ったところ、大学院地球環境学研究科で受け入れ可能とのことだったので、APIC-MCT 留学制度を創設することとなった。この制度により、MCT から推薦があった者に対して高度な教育の機会を与えることが可能になり、ミクロネシア地域の国籍・市民権を有し、環境の分野に

関心のある若者が最大 2 名、上智大学地球環境学研究科のあん・まくどなど教授の指導の下で学ぶことができるようになった。2017 年 9 月からミクロネシア連邦チューク州とヤップ州より 2 名が初めて入学し、2019 年に卒業した。さらに、この制度を確実なものにし、継続的にミクロネシア地域の将来を担う人物を育成するため、2018 年 3 月 22 日に上智大学・MCT・APIC 間で基本協定が締結され、同年 9 月にマーシャル諸島共和国マジユロ、ミクロネシア連邦コスラエ州より 2 名、2019 年 9 月にはパラオ共和国コロール州、ミクロネシア連邦ポンペイ州より 2 名が入学、2020 年 9 月にはミクロネシア連邦ヤップ州とマーシャル諸島共和国から入学、2021 年 9 月も 2 名を予定。これまでの卒業生は、皆優秀な成績を収めている。

(6) ナンマトル遺跡保存支援事業【継続】

ユネスコ世界遺産に登録されたミクロネシア連邦ポンペイ州のナンマトル遺跡について、ナンマトル遺跡の第一人者である片岡修上智大学客員教授等の協力を得て遺産保存を支援しようとするもの。平成 30 年度にはミクロネシア連邦政府公文書・文化歴史保存局の文化財担当官 Augustin Kohler 氏にカンボジアにある上智大学アジア人材養成研究センターを訪問してもらい（片岡教授が同行）、世界遺産の保存についての知見を深め、一昨年度は片岡教授に会報誌で執筆して頂いたナンマトル遺跡に関する記事をまとめて日本語と英語の冊子を作成するなどした。

本年度については、2019 年 5 月に始まった、日本政府が草の根無償で支援予定のビジターセンターが 2021 年末までに完成予定であることから、その工事の進捗具合を見つつ、案内板の製作およびガイドブック作成・印刷を支援する予定。

(7) 次年度以降の案件調査費・予備費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用（予備費）および予備費

2. 日・カリブ友好協力事業

カリブ諸国の信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「日・カリブ友好協力基金」を活用して、カリブ諸国の環境、エネルギー及び観光の分野における開発協力事業として、外務省中南米局カリブ室、カリブ共同体（カリコム）事務局等とも協議の上、次のプロジェクトを実施する。

(1) 西インド諸島大学・大学生招待計画【継続】

西インド諸島大学の各校（ジャマイカのモナ校、トリニダード・トバゴ共和国のセント・オーガスティン校、バルバドスのケープヒル校）の大学生計 4 名を我が国に招待して、上智大学において日本についての基礎講義を受講させるとともに、環境、エネルギーなどの関連施設の視察の機会を与える。昨年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により実施ができなかったため、トリニダード・トバゴ共和国のセント・オーガスティン校の学生を対象にオンラインでの参加を支援した。今年度は、コロナ禍の収束により渡航が緩和されることを期待し、実施時期は 2022 年 6 月を予定。太平洋諸島大学生招待計画と同時に実施する（前述）。

(参考)

| 年度 | 対象国（人数） |
|-----|--|
| H28 | ジャマイカ(2) バルバドス(2) トリニダード・トバゴ共和国(2) セントルイス(1) セントキッツネイビス(1) |
| H29 | ジャマイカ(3)ガイアナ共和国(2)トリニダード・トバゴ共和国(2)バルバドス(1) |
| H30 | ジャマイカ(2) トリニダード・トバゴ共和国(3)スリナム共和国(1)セントビンセント及びグレナディーン諸島(1) |
| R1 | ジャマイカ、バルバドス、トリニダード・トバゴ共和国 各1名 |
| R2 | トリニダード・トバゴ共和国（オンライン受講のみ） |
| R3 | 昨年度から繰り越し トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス、ジャマイカ、オープンキャンパス 各1名 |

(2) カリブ諸国・記者招待計画【継続】

昨年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により実施ができなかったが、本年度は、昨年候補者であったジャマイカとバルバドス（選考中）から2名を招待する予定で、環境・防災・エネルギー関連施設の視察を行い、我が国の環境保護、防災、エネルギー利用などについて理解を深め、我が国の現状についての広報を行う。外務省及び日本フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施するものである。実施時期は2022年4月を予定。太平洋記者招待計画と同時に実施する（前述）。

(参考)

| 年度 | 対象国（人数） |
|-----|--|
| H28 | ジャマイカ(1)、トリニダード・トバゴ共和国(1) |
| H29 | ジャマイカ(1)、バルバドス(1)、セントビンセント及びグレナディーン諸島(1) |
| H30 | トリニダード・トバゴ共和国(1)、セントビンセント及びグレナディーン諸島(1) |
| R1 | トリニダード・トバゴ共和国(1)、セントクリストファー・ネイビス(1) |
| R2 | ジャマイカ(1)、バルバドス(1) 延期 |
| R3 | ジャマイカ(1)、バルバドス(1) |

(3) カリブ諸国・リーダー招待計画【継続】

平成28年度に、ジャマイカ、トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス及びカリコム事務局の若手リーダーを、平成29年度はジャマイカの教育大臣を招待した。平成30年度は、外務省・大使館と調整を図ったが訪日時期の調整ができずに、外務省が招聘したゴンザルベス・セントビンセント及びグレナディーン諸島首相の歓迎夕食会の開催にとどまった。令和元年度は、カリコム海上保安関係者（トリニダード・トバゴ共和国、バルバドス）、バルバドスのキング・スポーツ大臣（同行1名）、ジャマイカのデビス外務・貿易省二国間関係局次長の3組6名を招待できたが、昨年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延により、実施できなかった。今年度も、感染状況と入国制限状況を見つつ、検討することとする。

(4) 次年度以降の案件調査費・予備費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用および予備費

3. 国際協力に関する講演事業

(1) APIC 早朝国際情勢講演会【継続】

本件早朝講演会は、外務省幹部、在外大使による時局の日本の外交課題や激動する国際情勢などについて質の高い内容の話題を提供する講演会として、参加者から評価が高い。本件講演会は APIC が諸活動を展開する上で欠かせない事業であり、今後とも会員の期待に沿えるように毎月 1 回(8 月を除く)企画して行く。講演会は入館時の検温、手指消毒、飲食時を除きマスク着用、三密回避と身体的距離を取った着席とし、講師席には飛沫感染防止の亚克力板を設置するなど、感染防止のための万全の措置を講じながら開催している。

(2) 国際協力懇話会【継続】

同様の外交課題・国際情勢等をテーマに小規模の懇話会(東京、及び、地方)を実施する。

4. 留学生奨学金事業【継続】

ザビエル高校(ミクロネシア連邦チューク州)には、ミクロネシア連邦のみならず、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国の最優秀の生徒が入学する。卒業生には、ミクロネシア連邦モリ元大統領を始めとしてそれぞれの国のリーダーを輩出している。APIC が上智大学と協力して開始した本「留学生制度」については、3 カ国の首脳の間で極めて高い評価が与えられている。

上智大学・ザビエル高校・APIC 間で締結した留学生協定に基づき、2014 年 9 月から 1 名、2015 年 9 月に 1 名、2016 年 9 月に 1 名が入学した。2017 年度には従来の協定に変更を加え、1 年間に最大 2 名が留学できるようになった。その結果、2017 年 9 月から 2 名、2018 年 9 月に 2 名が入学した他、2014 年に入学した 1 名が卒業したことにより、当制度の初めての卒業生を輩出した。2019 年 9 月にはパラオ共和国から 1 名が入学後、諸般の事情ですぐ休学し、2020 年 4 月復学。2020 年の 9 月にはミクロネシア連邦ポンペイ州とパラオ共和国のコロール州からそれぞれ 1 名が入学。以上 3 名は新型コロナウイルス感染症の影響で入国できず、現地からオンライン受講中。2021 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、ザビエル高校も体制が整っていないため、応募がなく新規入学者はいない。

ザビエル留学生は、日本での留学中に上智大学で勉強に励むと同時に、広島での上智大学ソフィア会の年次大会や佐原大祭(千葉県香取市佐原)に参加、島根県隠岐郡海士町を訪問し、日本の歴史・文化・社会についての知見を深めるなど課外活動も経験している。本年度も、支援をしていく予定。今後募金活動を積極化するとともに、留学生に対する生活費等の支給を含め留学が充実するよう支援を行っていく。

(なお、APIC は旅費、生活費を負担、上智大学は学費、寮費を負担。)